



国際経済交流財団
グローバルリスク シンポジウム 2017

グローバルな地政学的リスクの 現状と見通し

2017年7月11日(火)

於: 国際文化会館

KOMATSU RESEARCH & ADVISORY

代表 小松 啓一郎

本日の前提

- 国際情勢に影響する各種の要因を日本や米国、ロシアなどに有利であると不利であるとかかわらず、まず事実として見つめたい。
- そのため、「親米」や「反米」、「親露」や「反露」という古風な見方も避けたい。
- 本日の情報の基本的な扱いについては、国際的に知られるチャタムハウス・ルールをお願いします。

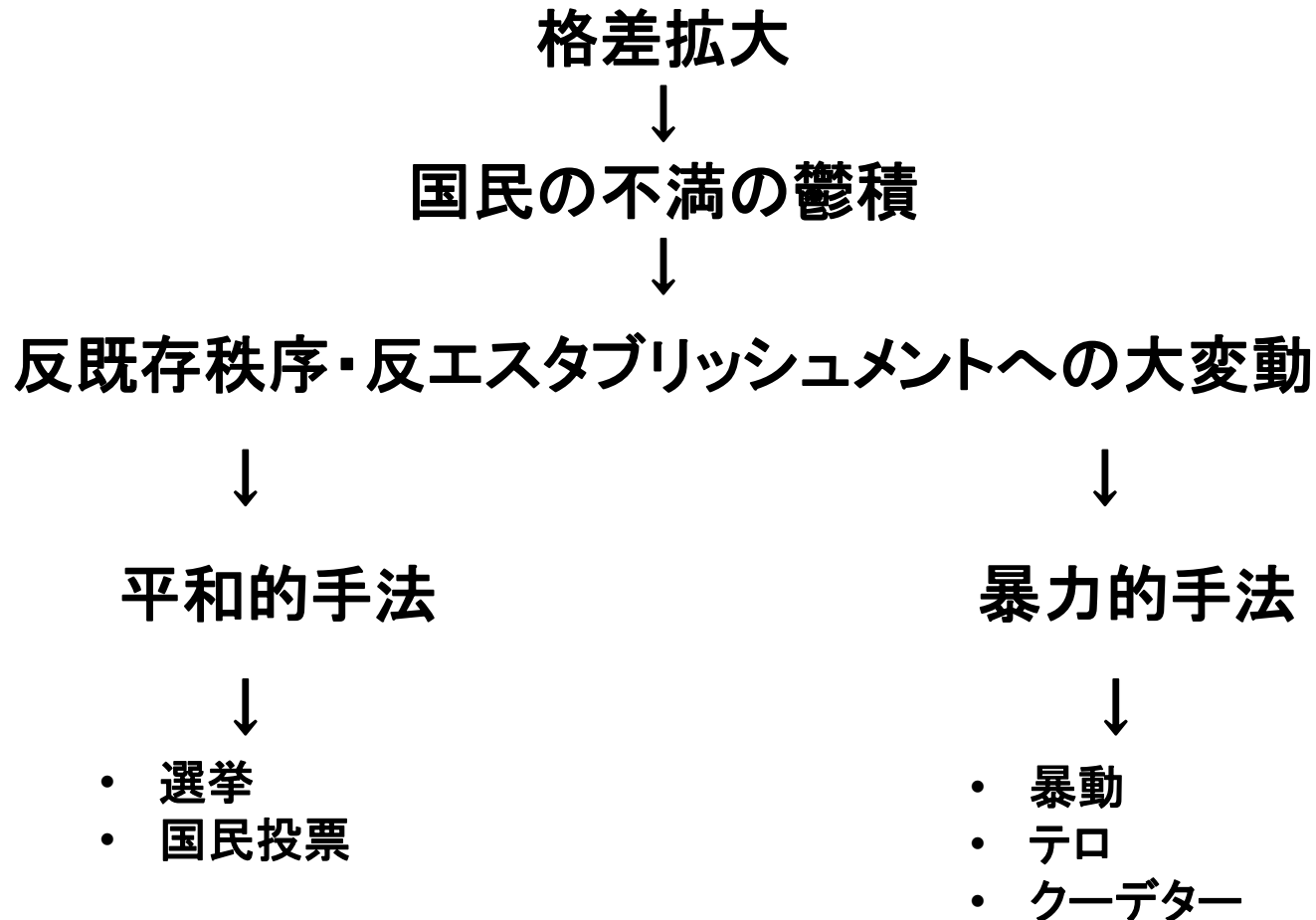
「ニューノーマル」の時代

- 歴史の大転換期:「想定外」が“New Normal”
- 戦後ブレトンウッズ・スミソニアン体制⇒冷戦終結で終焉
- 9・11テロ⇒対テロ戦争⇒米国一極体制の揺らぎ
- グローバル・スタンダード(＝欧米基準)から「新世界秩序」へ
- 向かうのは多極化？それとも無極化？
- 国際情勢の共時性

国際情勢の共時性

— 反格差運動の広まり —

格差拡大を背景とした 「反既存秩序」の動き



国際情勢激変への動き

反既存秩序の流れ

2008年	世界金融危機
2010年12月～	「アラブの春」
2011年	世界的な「反格差運動」
2014年6月	「イスラム国」がモスルを占領
	(英仏エリートが決めたシリア・イラク間国境の否定)
2014年9月	スコットランドの独立を問う国民投票で接戦
2016年6月	英国の国民投票でEU離脱の決定
2016年11月	米国大統領選挙 ドナルド・トランプ氏勝利
2017年5月	仏大統領選挙 マクロン氏勝利
2017年6月	英国総選挙 保守党の過半数割れ

マダガスカル

(2009年から2014年1月までクーデター政権下)



↑
(倉庫炎上)

↙ 〈ショッピング・
センター炎上〉

2009年1月26日 小松 啓一郎撮影

「アラブの春」

(2010年12月～2011年)

チュニジア→エジプト→イエメン→リビア
→シリア(アサド・ジュニア政権存続中)



チュニジア



エジプト

「99%対1%運動」(反格差運動)の主要発生地区



2011年の「占拠運動 (Occupy Movement)」(反格差運動)



出所: 小松啓一郎(ワシントンDC、2011年11月10日撮影)

格差拡大を背景とした 「反既存秩序」の動き

- スコットランド住民投票、コービン現象（英労働党党首）、Brexit、サンダース現象、トランプ現象、マクロン当選、英保守党の過半数割れ等にも共通する特徴
- 過去の経験知が通用しない、予測不可能な時代に

「国境は不変」という固定概念も
覆される時代が到来？

英国の独立派主要政党名



スコットランド・ゲール語:

Pàrtaidh Nàiseanta na h-Alba

スコットランド語:

Scots Naitional Pairtie

英語名: Scottish National Party (SNP)

ウェールズ語 *Plaid Cymru*

英語名: The Party of Wales

アイルランド語: *Sinn Féin*

(意味: ourselves)

コーンウォール語: *Mebyon Kernow*

英語名: The Party for Cornwall (自治要求)

コーンウォール語: *Party Kenethleghek Kernow*

英語名: Cornish Nationalist Party (CNP)

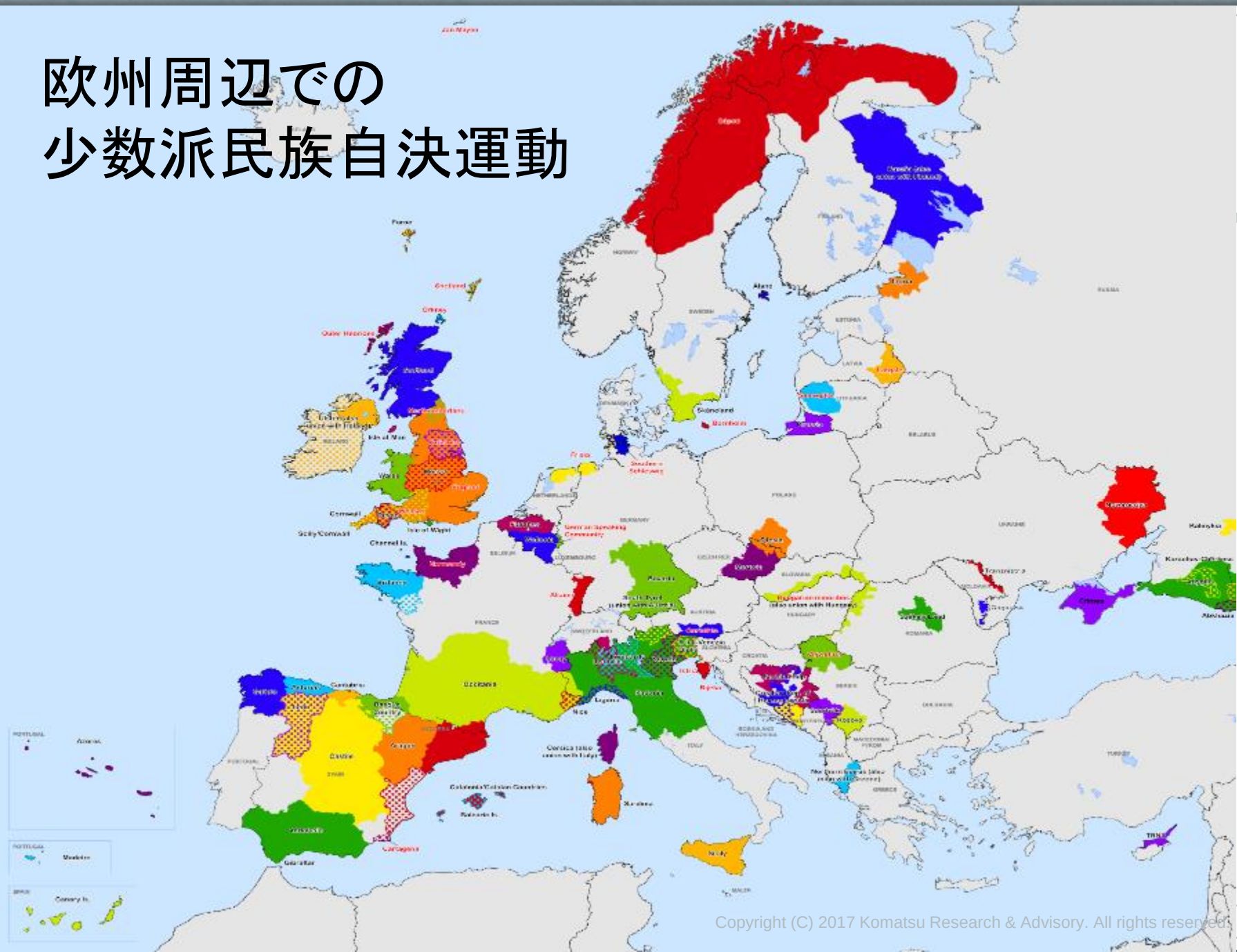
(完全独立要求→自治要求)

マンクス語: *Mec Vannin* (完全独立要求)

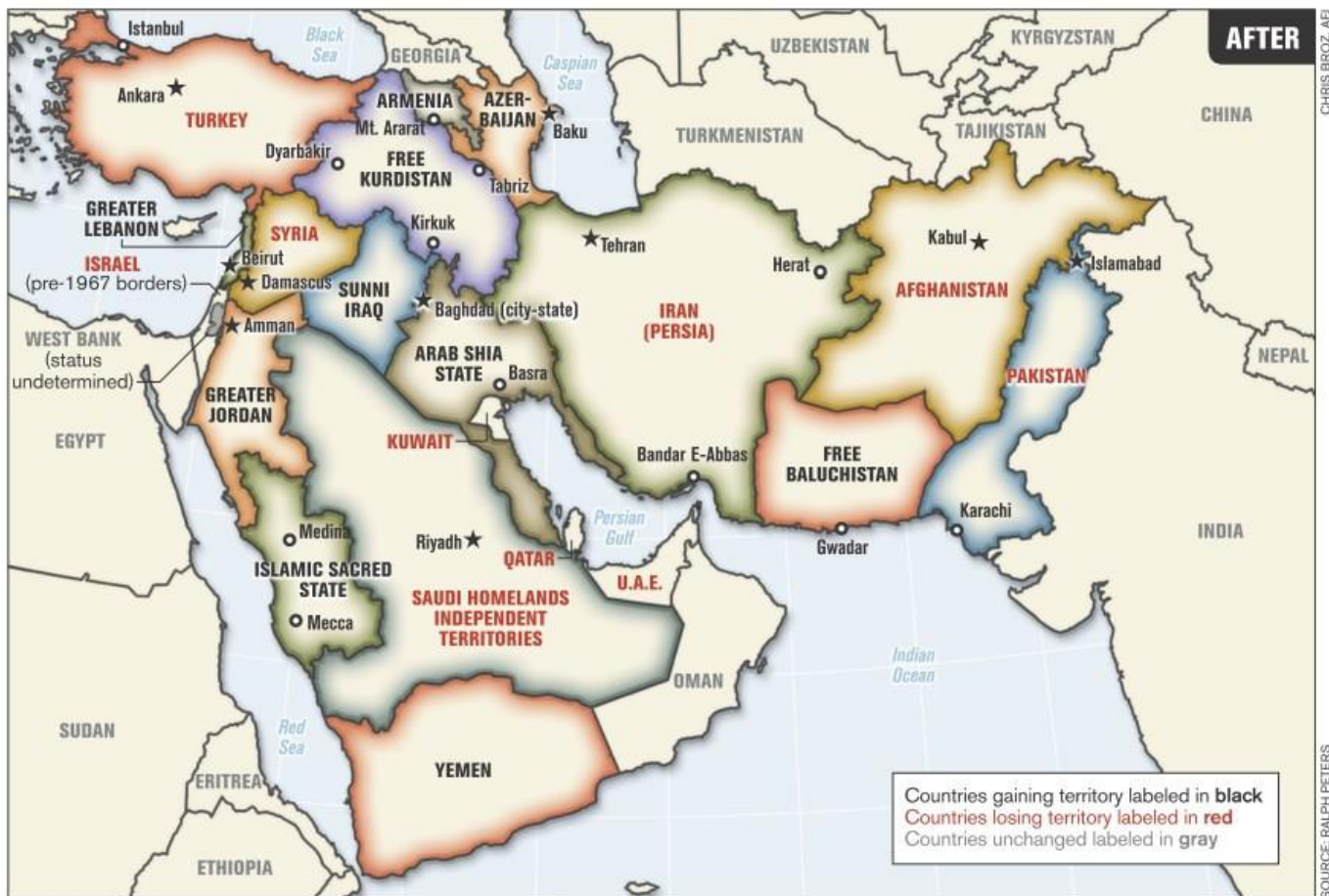
(意味: Sons of Mann)

マンクス語: *Liberal Vannin Party* (自治要求)

欧州周辺での 少数派民族自決運動

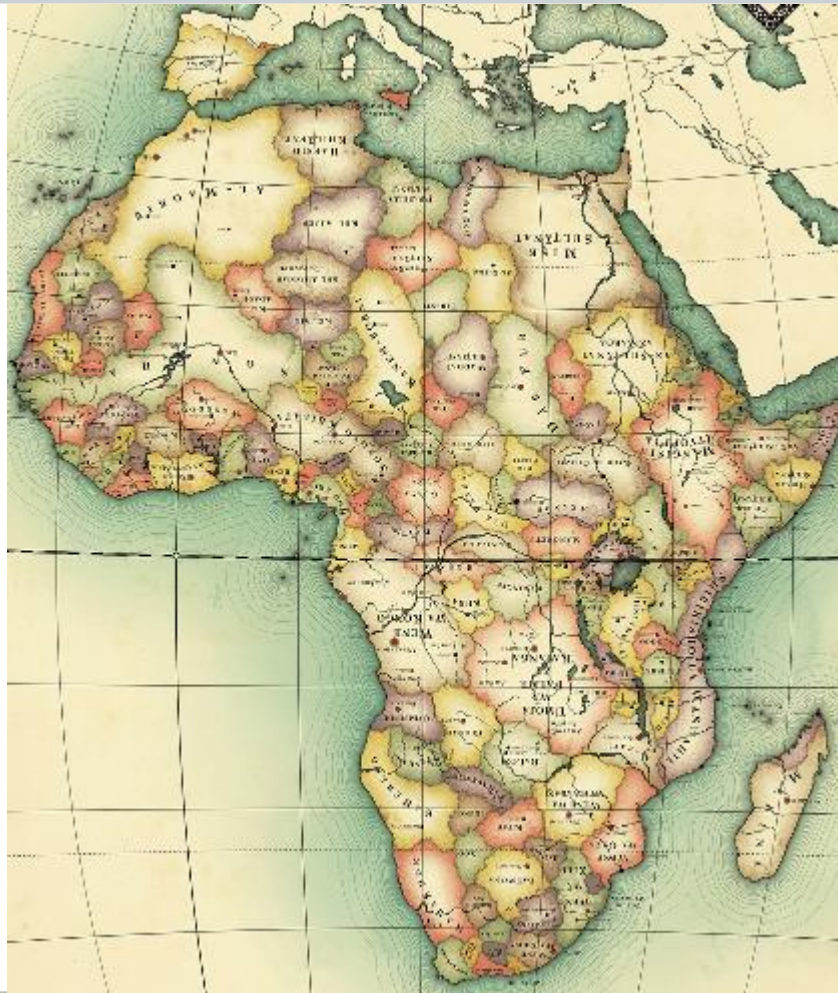


中東の国境変更へ？



1844年当時のアフリカ

もしもアフリカが植民地化されなかったら…



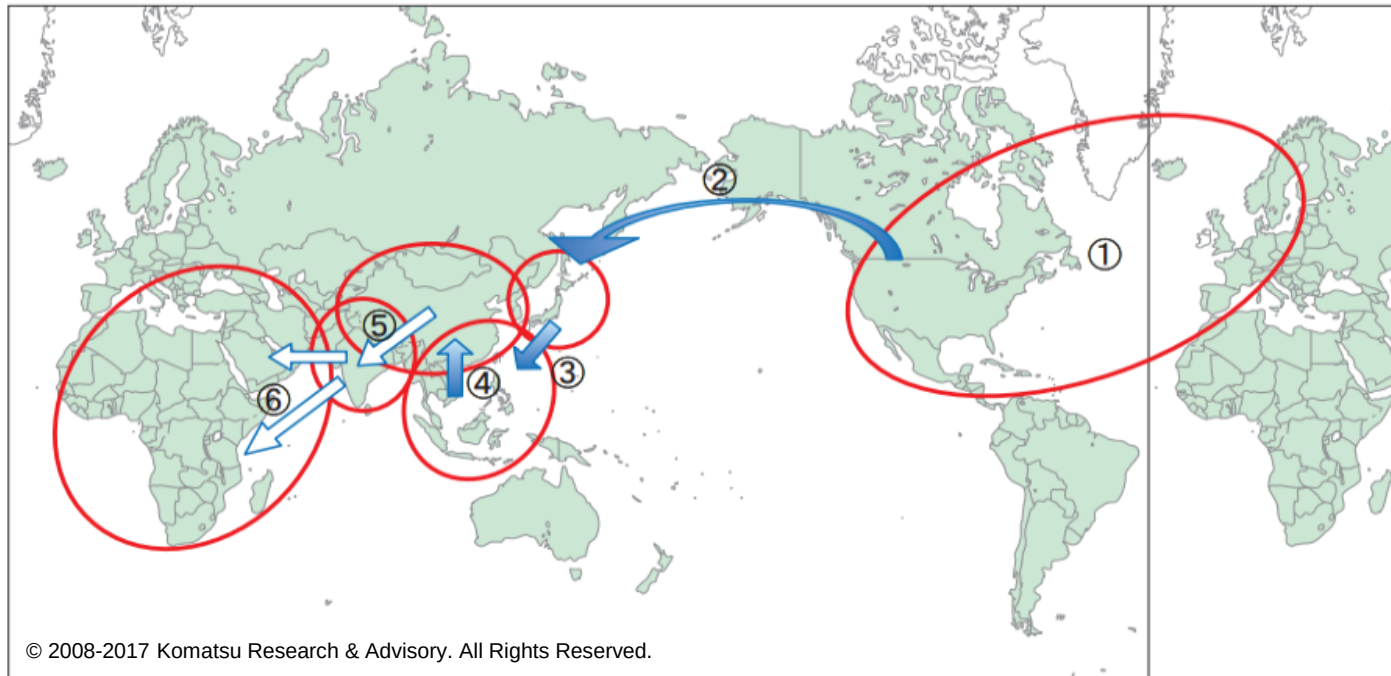
ニューノーマルの時代への対応

価値観の転換⇒新アイデアの創出が急務



産業構造から見た危機と機会

世界経済の成長の中心が移動 (数世紀単位)



- ①19世紀後半から1960年代: 欧米のヘゲモニー
- ②1960年代から1980年代: 日本の高度成長
- ③1980年代後半から1990年代: 東南アジアの急成長
- ④2000年代以降: 中国の拡大
- ⑤2010年代後半以降?: インドが中国を凌ぐ成長センターに発展
- ⑥2010年代後半以降?: 中央・西アジア、中東、アフリカの発展

大西洋の時代



太平洋の時代

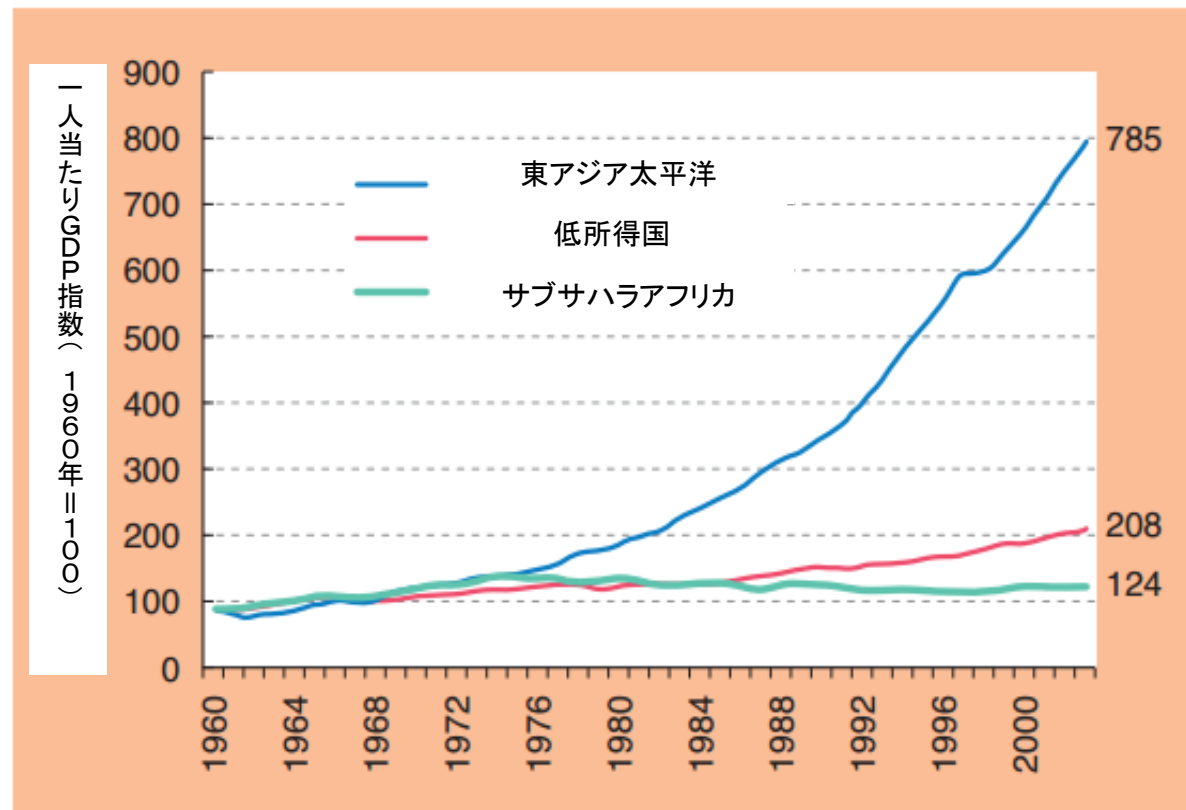


インド洋の時代?

東南アジアが、いきなりアフリカを引き離した

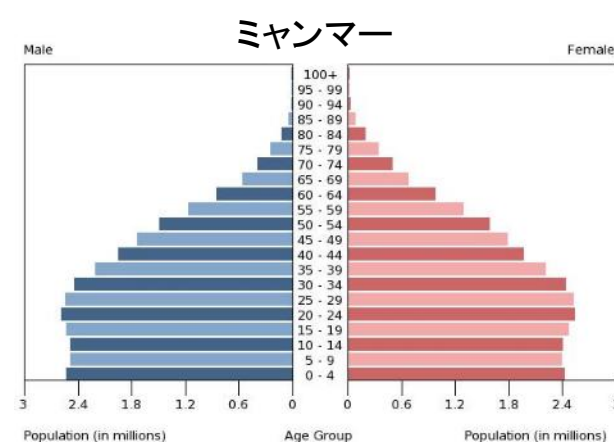
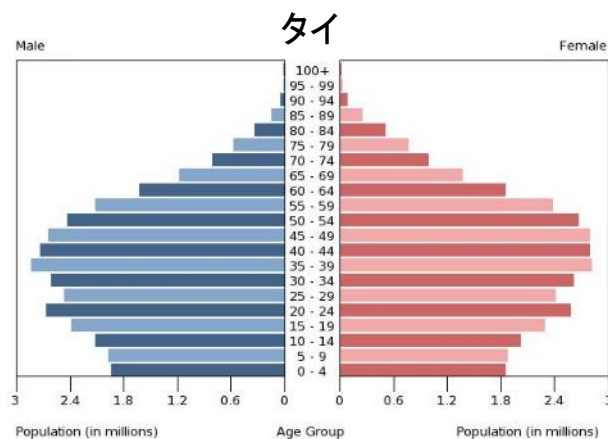
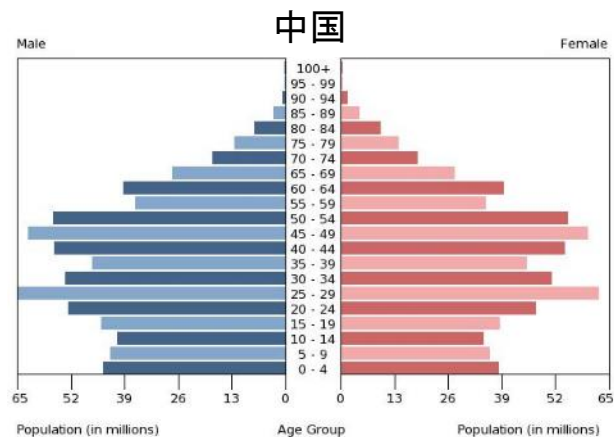
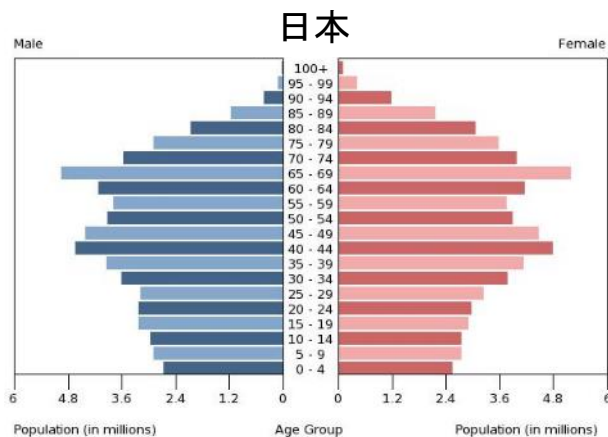
各地域の1人当たりの所得に基づく経済成長の経緯

一人当たりGDP指数（1960年＝100）

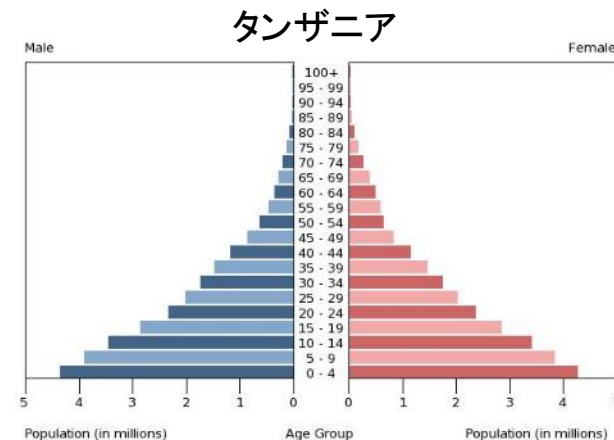
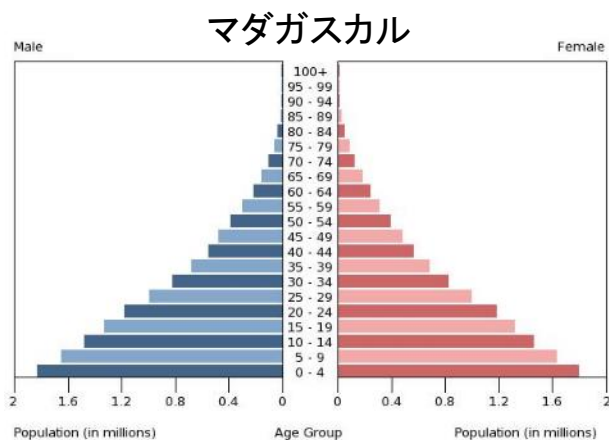
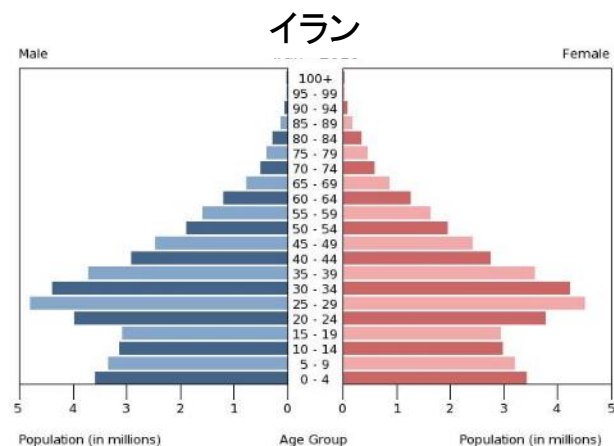
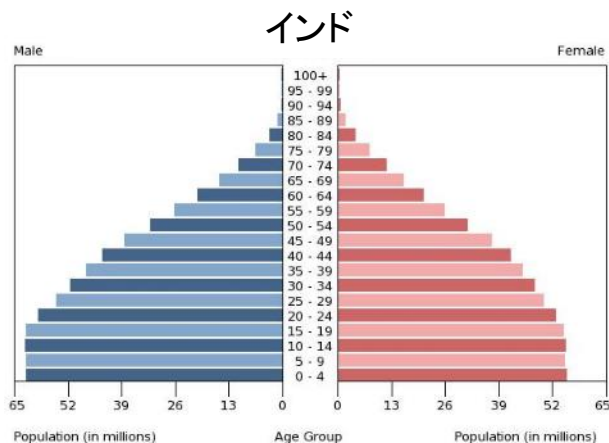


出所: Benno Ndulu et al, Challenges of African Growth: opportunities, constraints and strategic directions, The World Bank, 2007 （日本語訳: KRA）

人口構成に見る潜在成長力



人口構成に見る潜在成長力



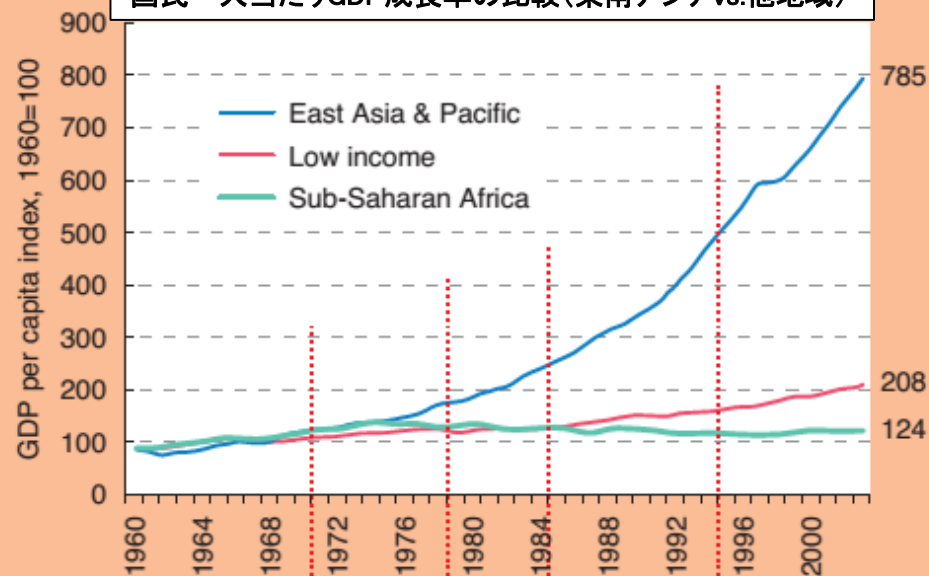
いきなりアフリカを引き
離した東南アジアの一
人当たり経済成長率と
日本から東南アジアへ
の大規模投資(四波)
のペースが一致

出所: 以下の二つグラフを KRAが加工して作成

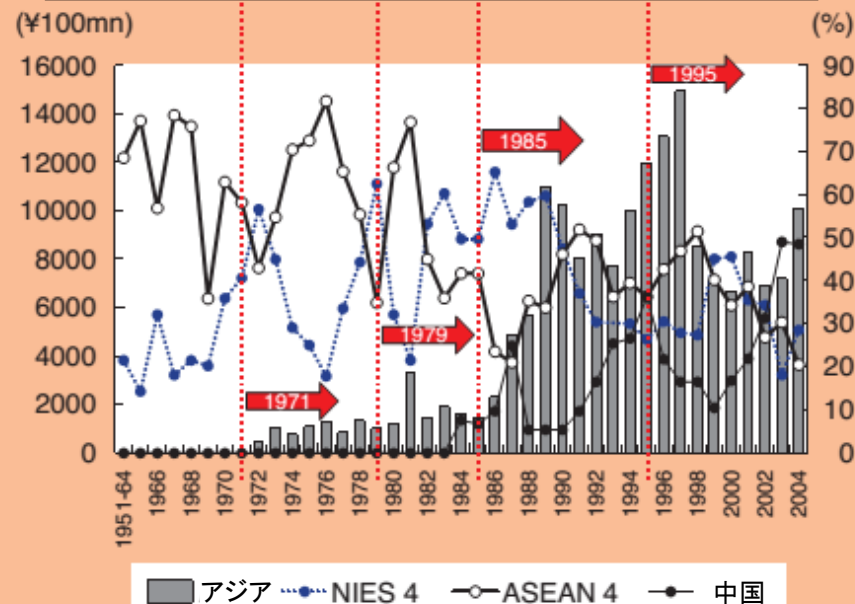
(上) Benno Ndulu et al, Challenges of African Growth:
opportunities, constraints and strategic directions, The
World Bank, 2007

(下) 池本 賢悟、「東アジア地域の持続的成長に向けての一考察: 直
接投資を中心に」、IIPS Policy Paper 316J、財団法人世界平和研
究所 平和研レポート、2006年2月

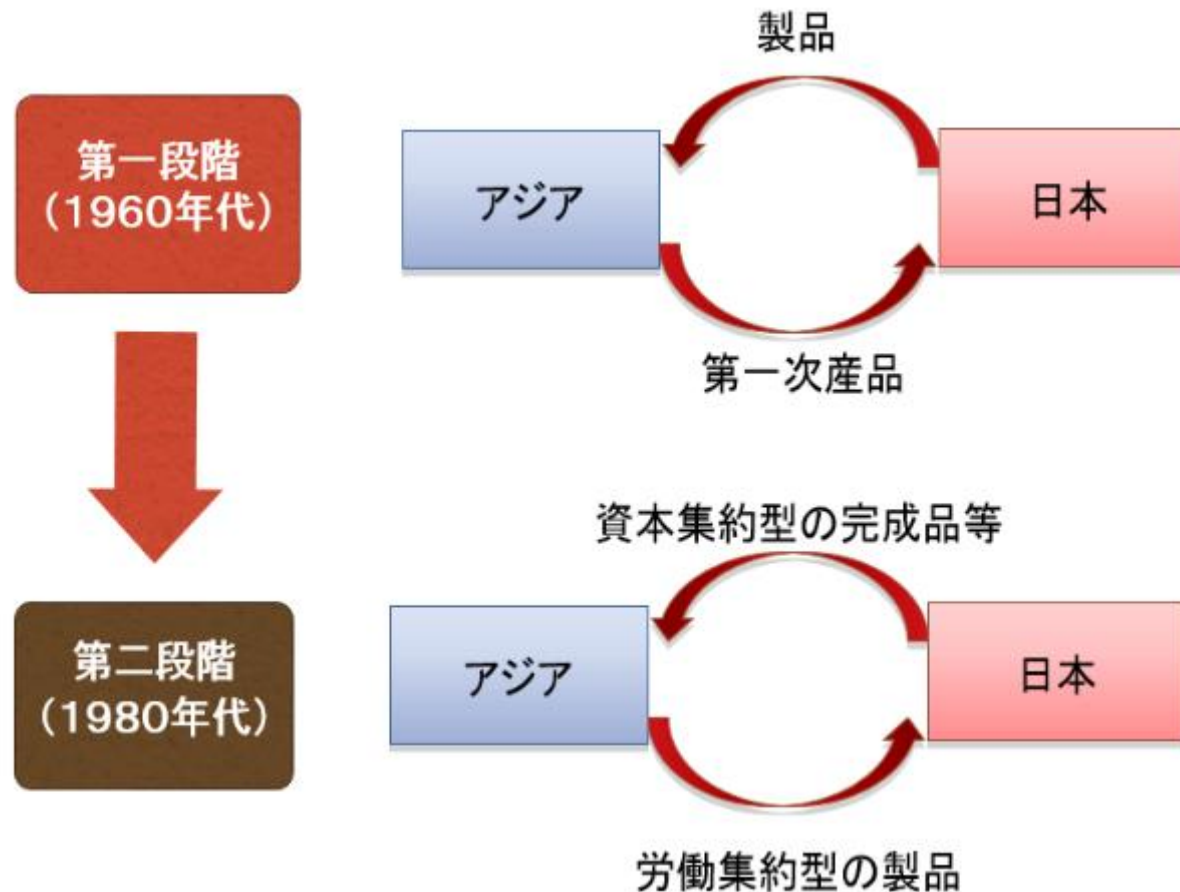
国民一人当たりGDP成長率の比較(東南アジアvs.他地域)



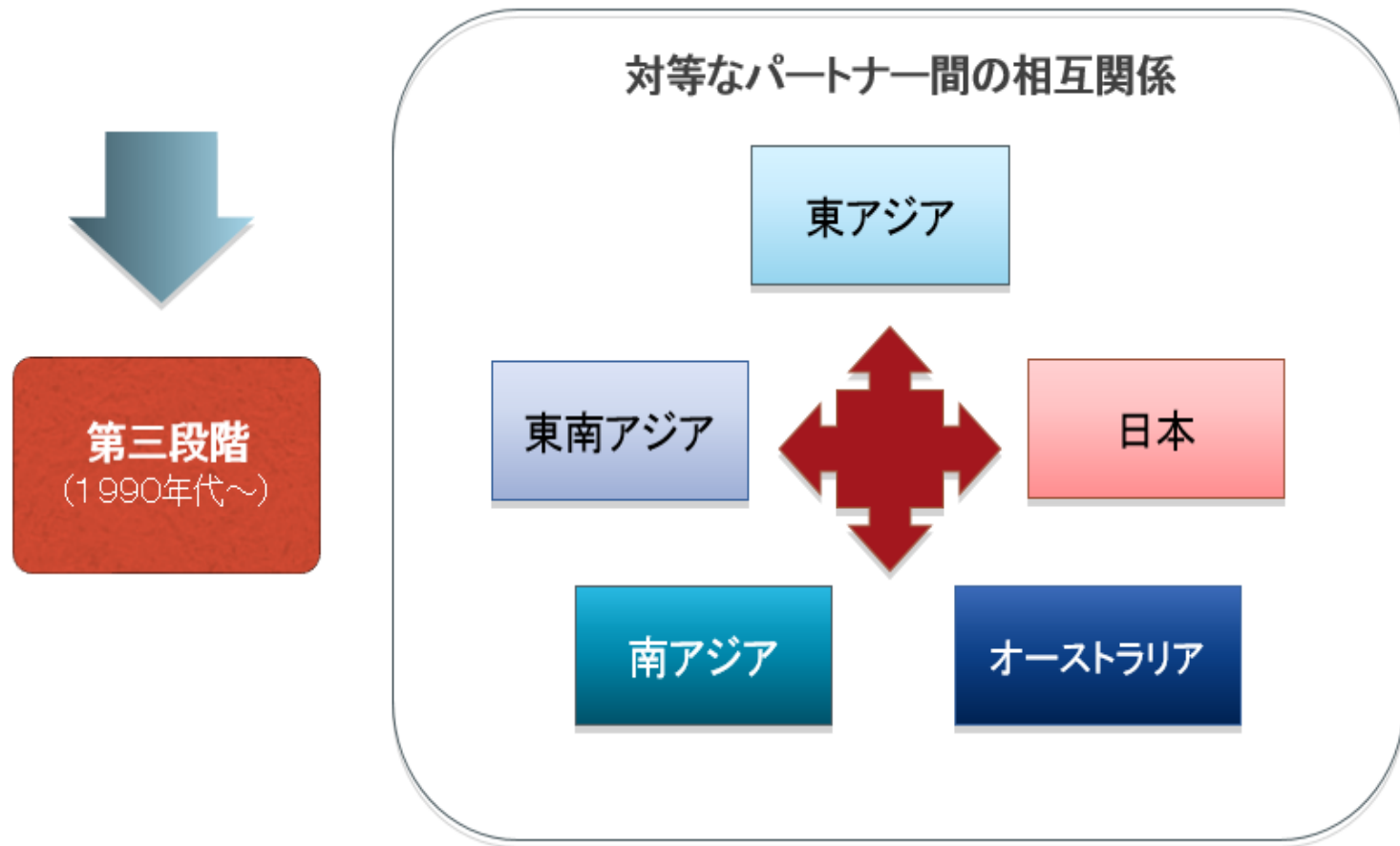
日本から東南アジアに向かう4波(赤矢印)の大規模投資



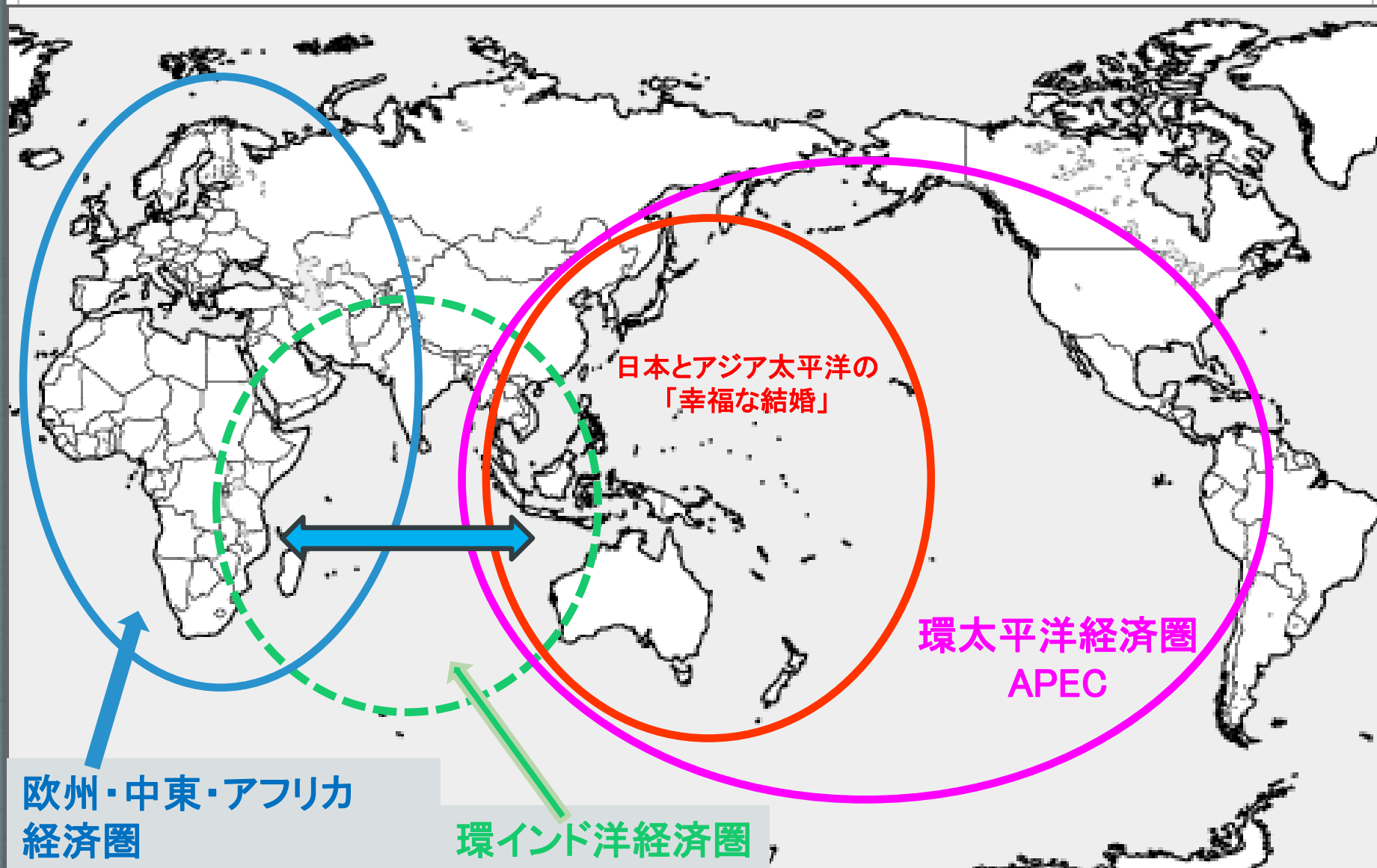
日本産業界の東南アジアへの進出 (第一・第二段階)



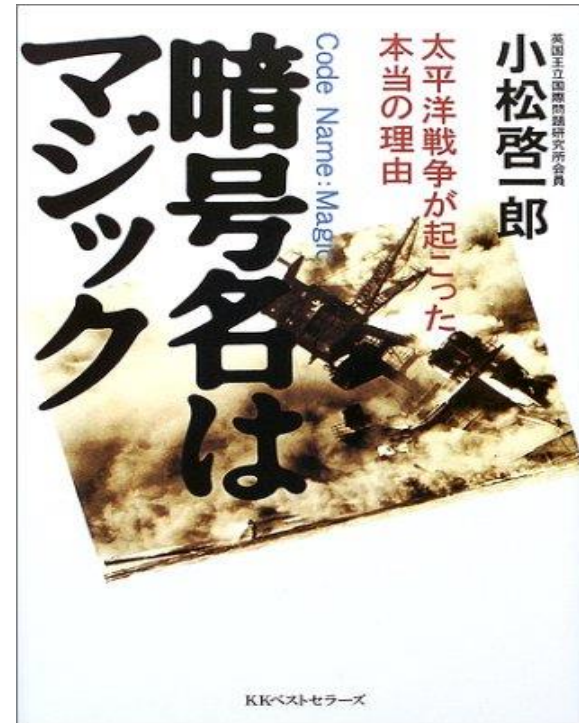
日本産業界の東南アジアへの進出 (第三段階)



新しいビジネス・チャンスの始まりか？ アジア太平洋圏と中東アフリカを繋ぐ環インド洋経済圏 の構築



Food for thought



入手方法のお問い合わせ: KRA事務局 (info@komatsuresearch.com)

THANK YOU !



ホームページ : www.komatsuresearch.com

お問い合わせ : info@komatsuresearch.com